

ごあいさつ

東北マーチングバンド・バトントワーリング連盟

会長 三條 正弘

令和2年度がスタートしました。希望にあふれ、仲間とスクラムを組んで目標に向かって日々の生活を進めるはずだったのに、未だ日常が戻ってくることはなく出口の見えないトンネルを彷徨っています。思いもよらぬ新型コロナウイルスの襲来によって、私たちのこれまでの当たり前は当たり前でなくなり、常識が常識ではなくなっていました。先が見通せない不安で押しつぶされそうです。

本連盟の理事会・総会についても、書面審議により決議するというこれまでに例のない方法で行わざるを得ませんでした。また、最大の行事である秋の東北大会は、苦渋の決断ではありますが、ビデオ審査会という形で行うことにいたしました。

たくさんの観衆の前で演奏・演技することを夢見て努力を重ね、厳しい練習にも耐えてきた皆さんの心情を思うと、胸が痛みます。しかし、嘆いてばかりはられません。私たちはマーチングやバトンの活動をここで止めてしまうわけにはいきません。

今、私たちには「新しい生活様式」と「パラダイムの転換」が求められています。学校の臨時休業の延期などで、部活動や日頃の練習は大きく制限されてきましたが、その現実にはしっかりと向き合わなければならないと思います。マーチングバンドやバトントワーリングの活動によって、私たちが目指してきたことは何だったのでしょうか。他人から見れば些細なことでも、指導者やプレーヤーにとって大切な瞬間瞬間があったはずです。私たちの日頃の活動は、アリーナで観衆から大きな拍手喝采を浴びるためということだけが目的だったのではなく、また、東北大会に出場することだけが目標だったのでもないと思います。毎日の練習で仲間と共に技を磨き続けてきたことで、自分が成長できた。それこそが活動の本質だったのではないのでしょうか。

変化の時代である今こそ、固定観念や既成概念を捨てて、マーチングやバトンに取り組む意味について問い直してみたいものです。どんなに暗い夜でも、朝の来ない夜はないことを信じて日々の歩みを止めることなく進んでいきましょう。できることを少しずつでも進めていきましょう。